



▲10月25日 ハロウィンパレード（大通り商店街）



▲11月6日 火災予防街頭広報（日清プラザ）



▲11月6日 伊豆箱根バス優秀安全事業所表彰（三島警察署）



▲10月26日 小澤選手プロ野球ドラフト指名
球団あいさつ
（日本大学三島高等学校）



▲11月6日 三島甘藷の収穫（佐野）



▲10月29日 学校給食地域絆づくり交流事業
（北小学校）



▲11月8日 松のコモ巻き
（箱根旧街道松並木）



▲11月8日 みんなの楽寿園
（楽寿園小浜池）



▲11月7日 タニタ監修メニューお披露目会
（市長応接室）

三島のまつりの今 —ヤツサモチ・佐野—

郷土資料館では平成二十八年一月三日(日)から企画展「三島のまつりの今」を開催します。今回は、その中から佐野地区の「ヤツサモチ」を紹介します。

ヤツサモチは佐野地区中最寄(地区は上・中・下最寄に分かれています)の山神社のまつりです。

このまつりの一番の特徴である餅つきは、もともと一月十六日の夜中に行われていましたが、サラリーマン家庭が増えたことなどから、二十年ほど前からその付近の土曜日に行われるようになりました。

まつり当日の夜、その年の当番の家に男性たちが集まり餅をつきます。「ヤツサヤツサ」の掛け声を上げながら、背丈ほどもあるヒメシヤラの棒を杵(きね)にしていきます。餅つきは、一回目は午後八時ごろ、二回目は午後十一時過ぎの二回に分けて行われます。



▲餅つきの様子 (平成27年1月16日)

餅つきの後、一回目についた餅を鏡餅に整え、それを先頭に最寄内を「ヤツサーノヤツサー」と声をかけながら回り、最後に山神社に奉納します。翌日は朝から山神社のまつりが行われ、各家には残りの餅を切り分けたものが配られます。

ヤツサモチには数百年の歴史があるとも伝えられていますが、近年はほかの多くの伝統行事と同様、その催し方に変化が見られます。

まず、参加者ですが、昔は最寄全体で行われていましたが、新しい住民が増えてきたこともあり、



▲最寄内をまわる様子 (平成27年1月16日)

現在は約四十戸ある山神社の氏子(うじこ)が、講(こう) (寺社参詣などの宗教行事などを行うための団体) を作って行っています。当番の家はこの講の中で回していきます。約四十年ごと、ほぼ一世代に一回当番が回ってくる大きな行事です。

まつりの様子もずいぶん変わったそうです。昔は餅つきの際、白を転がしたり、わざと泥や煤(すす)を餅に付けていました。汚くなった方がよいとされ、家畜に食べさせるなどしていたようです。現在はそのようなに汚すこともなく、二回の餅つきで白くきれいな鏡餅がふたつ作られるようになりました。



三島の村名③
山中新田
(錦田地区)
—芝切地蔵尊—

山中城跡の東南、箱根旧街道沿い山中新田集落入口に芝切地蔵尊があります。急な石段を登ると境内には切芝が積んであり、一説ではこの地蔵尊は宗閑寺(そうかんじ)で宿をとった旅人を祀ったものと伝わっています。

昔、宗閑寺に一夜の宿をとった巡礼の旅人が腹痛で倒れ、この世を去る間際に「私を地藏尊として祀り、芝塚を積み故郷の常陸国が見えるようにしてください。村人の健康や、世の人々の難病を救います。」と言い残したそうです。以来、七月十九日を供養の日として縁日が行われ、小麦饅頭(まえばし)、お札、腹掛(はらかけ)を販売しました。戦前は、伊豆から富士まで多くの信者があり、縁日は三島の町まで人波ができるほどにぎわったそうです。現在では供養日近くの日曜日に地元(ごきん)の行事として行われており、縁日ではお札・腹掛のみ販売しています。



▲絵葉書「芝切地蔵尊」(大正中期～昭和初期)